
普通とテストと召喚獣

ASTEL

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

普通とテストと召喚獣

【Nコード】

N8812W

【作者名】

ASTEL

【あらすじ】

バカとテストと召喚獣を別のクラスから見たらどう見えるのかそう思っ書いてみた話です。

不定期更新です

文才もないですが気長に付き合ってください

主人公紹介

オリ主人公紹介

日高 ひだか かずき 一貴 16歳

父、母、弟と共に暮らす。

成績は英語を除きBクラスレベルしかし英語が壊滅的のため総合成績はDクラスNo.2

得意科目は数学、科学、物理、日本史

苦手科目は英語及び暗記

好きなもの
本、機械

嫌いなもの
暴力、運動

趣味
読書、機械いじり

召喚獣

黒のスーツ、二挺拳銃

腕輪能力

換装 起動ワード「チェンジ」
言った（叫んだ？）姿に変化する

本作主人公

とにかく

調子に乗りやすい

後先考えず行動する

主人公紹介（後書き）

先に断わっておきますが筆者の私をモデルとしています

ですからここに出す点数も私が実際に定期テストで取った点数を交換して出したいと思います

どうぞよろしくお願いします

第一問

平賀「Dクラス代表の平賀源治げんじです。今年一年よろしく願ひします。」

いつみても模範的な態度だと思った

次々と級友が自己紹介を済ませていく大して興味もなく聞いていると

??「・・・汚らしい豚ども・・・」

いきなり現実に取り戻される恐ろしい言葉を聞いた気がする

声がしたほうを見ると縦ロールをツインテールにした勝気そうな女子がいた。確か清水美晴（作者注・正しくは清水美春です）といったか？記憶力には自信がないので間違っているかもしれないが

自分の番が回ってきたので簡単に自己紹介をする

日高一貫です

英語が壊滅的に苦手なので誰か教えてくれるとうれしいです。
人の名前を覚えるのが苦手なので間違えてしまうことが多々あるかもしれません。がすいません。

これだけ言っておけば大丈夫だろうと思って次の人に譲る

全員の自己紹介が終わったとき教室の扉が何者かによって開かれた

第一問（後書き）

誤字、脱字、文法間違いなどありましたら御一報を

できれば原作に沿っていきたいのですがそれだと書けるところが少なすぎる！

しよっちゅうオリストローを混ぜるかもしれません。

あとオリキャラも募集ししようかと思っています

一人で考えるとチートキャラだらけになってしまいそうな気がするので…

また感想（ツッコミ？）もお待ちしています

第二問（前書き）

早くも詰まりました

第二問

「2年Fクラスの吉井です2年Dクラスに試召戦争を申し込みます！」

扉を開けるなり間抜け面をしたやつがギガトン級の爆弾を起爆させやがった

「なにい！！新学期初日からだと！！」

「ふざけんな！！」

「リンチにしろ！！」

皆が揃いも揃って暴言と暴力を加える

その間

「代表？開戦日時はどうする？」

「そうだな実力をは把握したいし午後からというのは？」

「少々遅すぎないか？」

「別にいいだろう？」

「代表がそういうならいいか」

俺と平賀は開戦時間を決めていた

「その辺でやめておけ！もうボロボロだぞ！特に清水物騒なものだすな」

フォークで刺そうとしていた清水を止める

「で、開戦時間だが午後からでいいか？」

「わかった」

傷ついた体を引きずって吉井が帰って行った

「さて、戦闘準備だ！腹ごしらえを忘れるなよ！」

「「イエッサー！！」」

「代表は僕なんだけど・・・」

第二問（後書き）

さて

書き始めて考えてみると

Dクラスってほとんど本編に絡んでねえ！

さてどうしましょう？

オリストリーでなんとかする

しか方法はないんでしょうか？

誰かHELP！！

第三問（前書き）

さて連続投稿でもしますか！

第三問

飯を食った後クラス全員で作戦会議

成り行きで参謀になってしまった俺

「まず部隊を分けたいと思う」

そう言って決まった部隊が

第一部隊：俺を除く成績TOP10

要するに近衛部隊

隊長：平賀

第二部隊：俺と成績11～20

遊撃隊

隊長：日高

第三部隊・第四部隊：成績21～40を戦力が均等になるよう配置

本戦争における主力部隊

隊長：塚本、清水

第五部隊：残り

伝令その他

「では作戦概要を説明する」

「第一部隊は別命あるまで待機
おそらくないと思うが敵に踏み込まれたら容赦なく叩け」

「『イエッサー』」

「第三部隊は渡り廊下及び新校舎階段、第四部隊は旧校舎階段での
迎撃を担当する

一人の戦死が大きな痛手となる点数が半分まで減らされたら撤退
順次補充試験を行うこと」

「『イエッサー』」

「第五部隊は第一部隊に一人、その他の部隊に二人ずつ付け伝令を
頼む」

「『イエッサー』」

「第二部隊はひとまず第三部隊の援護を行う」

「『イエッサー』」

「さて開戦だ持ち場につけ!」

「サイエッサー！」

第三問（後書き）

このまま一気に終戦まで行こうかな？

第四問（前書き）

遅れまして申し訳ございません

第四問

「報告！第三部隊、渡り廊下にて敵先鋒と接触、隊長が男子の制服を着た女子だったそうです。」

男子の制服を着た女子？

俺「誰か心当たりないか？」

「それって木下秀吉じゃないか？」

「演劇部のあいつか？」

少々まずいかもしれない

「かわいいよなああいつ」

演劇部ということは戦争ものなどもやっていたり・・・

「どさくさに紛れてこくつて来ようかな？」

戦略に長けているかもしれない

「やめておけよ、どうせ玉碎するだけだ」

戦力増大の必要があるか・・・

「」「」だ」「」

俺「よし！第二部隊出撃するぞ！！化学の五十嵐先生と布施先生呼んでくれ！！」

「「隊長！！？？」」

所変わって第三部隊

塚本「一気に攻め込むんだ！！」

Fクラスはじりじりと押されて後退を始めているすでに何人かが補修室送りになっているが・・・

俺「試獣召喚サモンっ！第二部隊攻撃開始！！」

「「試獣召喚サモンっ！！」」

Fクラス前線部隊員A「増援だと！！」

同B「このタイミングで？」

同C「撤退開始！！後続に引き継ぐ！！」

「「逃がすか」」

Dクラス 鈴木一郎 VS Fクラス 横溝

化学 132点

56点

横溝「くっそー!!」

そのまま鏢迫り合いになるこの距離なら外さない!!

召喚獣に銃を構えさせ

「ターゲットロックオン??」

フィールドが消えた!?

吉井「よし。島田さん、ここは君に任せて先を急ぐよ!

島田「ちよっ・・・!普通逆じゃない!?」
「ここは僕に任せて先を急げ!」
「じゃないの!?!」

吉井「そんな台詞、現実世界じゃ通用しない!」

島田「よ、吉井!このゲス野郎!」

清水「お姉さま!逃がしません!試獣^{サモン}召喚!!」

島田「くっ、美春!やるしかないってことね・・・!試獣^{サモン}召喚」

清水「お姉さまに捨てられて以来、美春はこの日を一日千秋の想いで待っていました・・・」

なんなんだこの二人の関係は・・・姉妹ってわけじゃなさそうだ・・・
・顔が似てないし・・・

島田「ちよっと!いい加減ウチのことは諦めてよ!」

吉井「ところで島田さん、お姉さまって?」

清水「嫌です!お姉さまはいつまでも美春のお姉さまなんです!」

島田「来ないで!うちは普通に男が好きなの!」

清水「嘘です!お姉さまは美春のことを愛しているはずです!」

まさかレズ!?

島田「このわからずや!」

ついていけない・・・

清水「行きます、お姉さま!」

勝手にやっけてください・・・

俺「伝令、第四部隊を下げろ!ここは第二部隊が何とかする!第四部隊は第一部隊と統合!」

伝令「了解!」

その五分後・・・

伝令「隊長!押し切られます!」

第四部隊を下げたところに敵の増援が到着、押されていた・・・

俺「お前あと何点ある？」

伝令「はい？86点ですが・・・」

俺「わかった、塚本！全部隊をいったん下げろ！」

第四問（後書き）

さて次回原作崩壊を始めます！

第五問（前書き）

原作崩壊START!!

第五問

回想

俺「できたか？」

「???」「とりあえず腕輪を強制的に発動させるものだけはやったよ」

俺「で、あの人は？」

「???」「とりあえずプロトタイプとして腕輪型に収められるかって」

俺「わかった。で、完成してるのか？」

「???」「うん明日から学校始まるし、とりあえず持って行ってよ。
あの人も早く実験データがほしいって言ってたから。」

俺「わかったしかしお前も災難だなあんなことやってたから・・・」

「???」「いいんだよだって面白そうじゃんFクラスも」

俺「それでいいならいいが」

「???」「兄さんも頑張ってたね」

俺「了解した」

???「固いんだから・・・」

俺「お前ほどじゃないさ」

???「そうだね」

回想終了

俺「この場にいるFクラス全員にDクラス日高一貴が化学勝負を申し込む！布施先生！」

布施先生「承認します！！」

Fクラス横溝「そんなに自信があるのか！に、逃げろ！！」

Fクラス藤堂「フィールドに入らなければなんとかなる」

Fクラス吉井「展開される前に逃げれば敵前逃亡にはならない！！」

俺「なあ」

伝令「なんですか？」

俺「鬼の補修、頑張ってくれ・・・」

伝令「え？」

俺「召喚しろ、試獣^{サモン}召喚!!」

伝令「さ、試獣^{サモン}召喚!」

弟からもらった腕輪をはめながら起動ワードを言い放つ

俺「^{フォースドスターキカウシ}強制起動換装百式 メガ・バズーカランチャー」

エネルギーチューブを伝令の召喚獣の体に差し込む

そして、

俺「^{ファイア}発射アアアアアアアアアアアアアアアア!!」

Dクラス 日高一貴(+伝令) VS Fクラス 総勢5名

252点+(86点) 合計326点

4.3秒後

52点+(0点) 0点

その他の被害

Fクラス横溝 52点↓27点 左腕消失

他2名 61点↓60点 武器先端消滅

46点↓39点 盾融解

同、藤堂 58点↓8点 両足消滅

同、吉井 無傷

第五問（後書き）

やってしまいました

感想をお待ちしています

またh・oさん感想ありがとうございます

第六問

渡り廊下にいたFクラス勢を薙ぎ払った直後腕輪をはめた左腕に痛みと振動が・・・

そして爆発音が響いた

ドンッ！！

粉々になった腕輪の破片が腕に突き刺さる

肘から先の感覚はない

おそらく衝撃による一時的なものだろう

血は流れているが大した量ではない

俺「第二部隊の指揮権をお前に預ける、あとはたのむぞ塚本・・・」

塚本「そんなことより早く保健室へ行け！！」

俺「わかってるそのつもりだ・・・」

階段を下りながらポケットからインカムを取出しあいつに緊急連絡
エマージェンシーコール
を入れる

俺「すまん、腕輪が壊れた怪我したから保健室まで来てくれないか

？」

弟「わかった、腕輪の状況は？」

俺「粉々だ。腕にいくつかパーツが刺さってる。残りはおそらく渡り廊下の転がってるだろうな。」

弟「わかった。すぐ行く」

所変わって保健室・・・

とりあえず刺さっているパーツをピンセットで引っこ抜いていると弟が飛び込んできた。

弟「大丈夫！？」

俺「消毒と包帯巻くのやってくれないか？」

細かい破片を水道で流しながら頼む

弟「わかったけどどうなったの？」

俺「腕輪がいつもと違う個所は二つ」

弟「うん」

俺「まず点数を200点持っていかれた・・・」

弟「え？」

俺「それと使った後にプロトタイプは爆発した」

弟「ちょっと待ってよ兄ちゃんの換装の消費点数は10点だろ。なんだ？」

俺「知らん！」

弟「プロトタイプが爆発したのはおそらく基盤の発熱で腕輪内の空気が膨張して起きたものだと思うけど・・・これじゃデータも壊れるから換気口を開けてもだめだと思うし・・・」

俺「とりあえず改良が必要だな大貴」

大貴「わかったよ兄さん」

第六問（後書き）

弟の名前は日高大貴です

この話って実は僕のやりたかった2つの作品を強引につなげたものなんです

大貴の小説を今度投稿しようかと思っています

では、h・oさんいつも感想ありがとうございます

腕輪の能力についてはまたいつか書きますね

第七問（前書き）

遅くなりました

第七問

治療を終え教室に戻るとクラスメイトが安心した様子で待っていた。

どうやら勝つたらしい

俺「やはり下位クラスに負けることはないか・・・怪我しただけバカ見たよ・・・」

平賀「それが・・・」

俺「ん？どうした？」

平賀「僕たちは負けたんだ・・・」

俺「・・・え？冗談だろ！？二つもランクが下になんのかよ」

平賀「Fクラスの恩情措置で設備交換はしなくていいらしいけどね」

俺「はあ・・・」

平賀「なんでもAクラスを倒す気らしい」

無茶にもほどがある・・・

俺「そもそもなんで負けたんだ？」

——事情説明中——

俺「長期戦を仕掛けてきたから一気に片を付けるために全部隊を突撃させたらFクラスの姫路瑞月が出てきて不意打ちをかけられたと・・・」

平賀「そういうこと」

なるほどそりゃ警戒外だ・・・

平賀「そつだ設備交換をしない代わりにあれを指示されたら壊してくれって言われたよ。」

俺「あれってBクラスの室外機か？」

平賀「そう」

俺「わかった基盤を破壊できるようにしておこう。間に合わなかつ

たら代わりにだれかお願いな」

しかし問題があるな・・・

平賀「なんだ？」

俺「なんとなくもう一回試召戦争をやる羽目になる気がする」

平賀「なぜ？」

だって

俺「もし今日の試召戦争でFクラスがCクラスに挑んでCクラスが負けたらお前はどつする？」

平賀「Cクラスに攻め込むかな？」

俺「同じ状況だ。たぶんEクラスが攻めてくる。」

クラスメート「「「な、なんだって！！！！」」」

俺「急いで補給試験を受けろ！、運が悪いと明日の朝から仕掛けてくるぞ」

「「「サ、サイエッサー！！！！！！！！」」」

第七問（後書き）

さて、ここからオリ話です

お知らせついでにバカテスト

弟側のバカと兄と召喚獣がDクラス戦を終了するまでこちらを更新
しません

・
もしかすると一巻を終わらせるまで更新しないかもしれませんが・

ということバカテスト

一問目

化学

問 以下の問いに答えなさい

調理のために火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を答えなさい。

日高一貴の答え

問題点

1、そもそもマグネシウムは加工が大変難しく鍋の形にすることが
困難

2、酸化しやすく火にかけると鍋自体が消えてしまう可能性がある

合金の例

ステンレス

教師のコメント

その通りです

二問目

問 以下の意味を持つことわざを答えなさい

- (1) 得意なことでも失敗してしまうこと
- (2) 悪いことがあった上にさらに悪いことが起きる喩

日高一貴の答え

- (1) さるも木から落ちる
- (2) ふんだりけったり

教師のコメント

漢字で書いてください

三問目

問 以下の英文を訳しなさい

This is the bookshelf that my
grandmother had used regularly.

日高一貴の答え

教師のコメント

あなたは本当に英語が苦手ですね

ちなみにbe動詞をすべて言ってみてください

日高一貴のコメントに対する答え

beam is are was were

教師のコメントその二

beenが抜けてます

お知らせついでにバカテスト（後書き）

とりあえずここまで

感想待ってます

あと弟編の「バカと兄と召喚獣」もよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8812w/>

普通とテストと召喚獣

2011年11月13日11時50分発行